

# 井伊直弼と開国150年祭

Iti Naosuke - Gateway to the future

## 主催事業

### ファイナーイベント 「狂言オペラ」ためぎのはらひつみ

総勢200名を超える市民が、プロの音楽家や演奏家、大蔵流狂言茂山千五郎家とともに新作オペラに挑戦します。井伊直弼公が作った狂言「狸腹鼓」を基にした彦根発の狂言オペラで、井伊直弼と開国150年祭のファイナーを飾ります。

日時 3月22日(日) 午後3時~同5時  
(開場 午後2時30分)

場所 ひこね市文化プラザ グランドホール(野瀬町)

入場料 一般1,000円、3歳~小学生 500円(全席自由)

※託児サービス(未就学児)がありません。希望する人は、3月14日(日)までに予約してください。

## 市民創造事業

### ひこね繊維ものがたり講演会

彦根市の地場産業であるファンデーションは、昭和30年から40年代にかけて全国シェア約70パーセントを占め、最盛期を迎えていました。戦前の足袋縫製技術が卓越していたため、ファンデーション製品への移行はスムーズに行われ、輸出から国内の普及が急速に進み、全国に縫製の町「彦根」と名を馳せました。

しかし、オイルショック以降、需要の衰退・価格競争・生産の海外移転などにより、産業が後退してきています。そこで、以前の活気を取り戻すために、彦根がファン



デーション縫製の発祥地といわれていることを地域の人たちに知っていただき、今後の発展を目指すための講演会を行います。

日時 2月20日(土) 午後1時~同4時  
場所 ひこね市文化プラザ エコホール(野瀬町)

講演会  
1部「彦根ブラジャーを語る」  
講師 馬場秀男さん(最盛期を知る製造経験者)、村田芳雄さん(最盛期を知る販売経験者)

2部「地場産業活性化「トーク&トーク」」  
講師 北川陽子さん(染織デザイナー)

問い合わせ先 ひこね繊維協同組合  
500年祭委員会 ☎22-4769番

## 「子ども110番の家」の設置にご協力ください

最近の子どもを巻き込んだ事件の多さに、大人はどう対応すればいいのか試行錯誤している状態ではないでしょうか。いつも大人の「目」が子どもに向いている地域づくりを目指すことがまず第一歩だと思います。その一つとして「子ども110番の家」設置運動が地域や事業主の協力により発足し、現在1,725か所です。

この活動は、目につきやすい所にプレートを設置し、子どもたちに危険が押し寄せたときの避難場所を確保する制度です。また、多数設置することで、犯罪抑止を目的とするものもあります。各学区(地区)の「青少年育成協議会」が窓口です。皆様のご理解とご協力をお願いします。

問い合わせ先 青少年育成市民会議

事務局(園子ども青少年課内)  
☎23-9590、FAX26-1768



## わたしのまちの「美しいひこね創造活動」体験記

### 地域に目を配る活動で 安全・安心のまちづくりへ

#### 本町一丁目自治会

本町一丁目自治会では、町内の防災を強化しようとして、平成20年7月ごろから試験的に夜回りを始め、10月ごろから本格的に実施しています。

現在は毎日、午後9時から拍子木をたたきながら町内を約40分かけて回っています。活動に参加している会員は約20人。毎日4~5人が夜回りをしています。夜回りをしていると、街灯の球切れ、不法駐車、夜間のごみ出しなど、町内のことがよく分かるので、日ごろから地域の安全に対して目を配ることができ、安全・安心のまちづくりに貢献していると思います。

また、夜回りの活動が定着してからは、昼間に町内の人から「ご苦労さま」などと声をかけられることもあり、とても励みになりますし、地域でのコミュニケーションを図る役割も果たしていると思います。

美しいひこね創造事業には、今年度から加入しています。活動で得られる「彦一」は、夜回りの活動に必要な備品を購入するために使っていきたいと考えています。



▲夜回りをする会員

問い合わせ先 困まちづくり推進室 ☎30-6117、FAX22-1398  
Eメール: machizukuri@ma.city.hikone.shiga.jp

※このコーナーに登場する団体・グループを募集しています。詳しくは、困まちづくり推進室までお問い合わせください。

## Brasilia ようこそ!



### 第7回 食文化で学ぶこと

小学校での国際理解教育で、「ブラジルでもご飯は茶碗で食べるといいますか」と質問すると、「はい」という答えが返ってくる場合があります。

食器や食べ方が、それぞれの国によって違うことがあります。

ブラジルでは、米を塩とにんにくで炒め、それをおかずと同じ皿に盛り、ナイフやフォーク、スプーンで食べることが多いですが、日系人である我が家では、日本と同じような食べ方をしていました。

そのため、子どもたち、おにぎりを食べていたのを友達に見られ、「ご飯を手で食べているぞ!」と、

からかわれたことがあります。一時的にですが、母が作ってくれたおにぎりを「恥ずかしい」と思いました。このことを大学時代に知り合った、日本食が好きな日系人ではない友達に話すと、「世界にはいろんな文化があるってことを知らなかったんだね」と言ってくれました。

自分とは異なる文化を拒否せず、理解しようとする心が大切であると強く実感しました。



【彦根市国際交流員 平田エジナ】